



4. 上手に食べれば...

指導の目的

食と環境を相互に考えることにより、食を通じた環境問題改善について、「ものを大切にする」「資源を大切する」「むやみに捨てない」という倫理的な意識を、事例やデータ等を用いて説明を行う。

ここでの背景

我が国の一般廃棄物の量は、厚生労働省、環境省によると、平成10年度約5,160万トンとなっており、平成元年以降ほぼ横這いが続いているものの減少に転ずる兆しはみられない。また、国民1日1人当たりでみると1.118kgとなっており、これについても同様の傾向となっている。さらに、食品廃棄物には、食品流通段階や外食産業の段階で排出される事業系一般廃棄物と家庭から排出される一般廃棄物が含まれるが、平成8年度の厚生省資料に基づく農林水産省の推計によると排出量は事業系一般廃棄物で600万トン、家庭系廃棄物で1,000万トンとなっている。このような中、食品リサイクル法により最終処分場の新設許可条件が強化され、平成11年度の新設許可件数は激減している一方、現在全国に2,128施設あるごみの最終処分場の残余年数も問題となっている。また、食品ごみの増加によって、カラス等による被害の件数も増加している。こうしたことから、環境に配慮した食生活を送ることが、これらの状況の改善に繋がるということを多くの人に理解してもらうことが重要である。

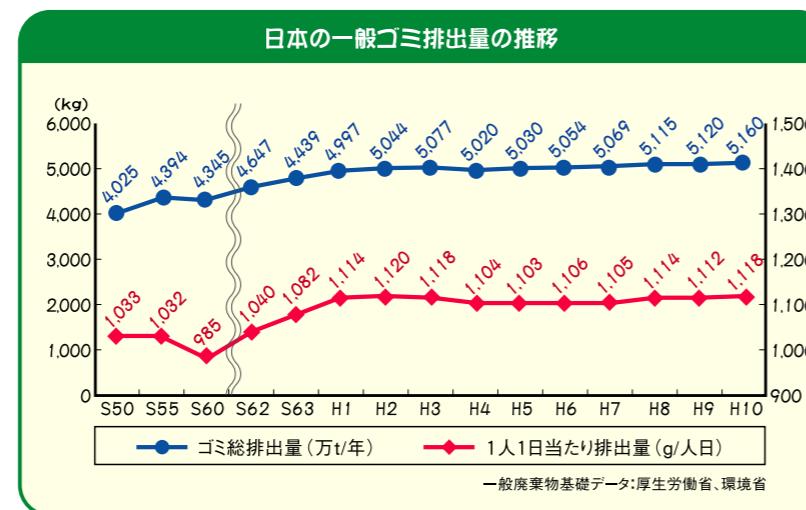
キーワード

●もの・資源を大切にする ●生ごみの発生源 ●ごみの量、最終処分場残余年数 ●発想の転換

●資源を大切にする

私たちは、これまで大量生産、大量消費を続け、より生活を便利にすることが、豊かさとされてきました。その結果、大量に消費された残りとして、多くのごみが社会に氾濫しています。

食生活と環境とを結びつけて考えるためには、まず、「ものを大切にする」「資源を大切にする」とを教える必要があります。

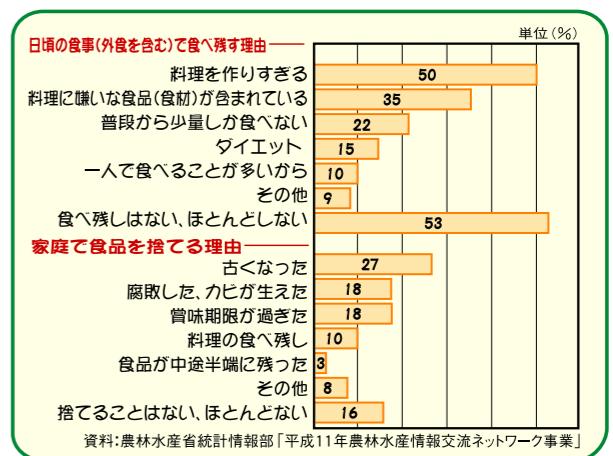


●生ごみの発生源は、こんなところがら。

私たちの食生活から排出されるごみの多くは、「買いたいすぎ」「料理のくず」「食べ残し」「古くなった」など、生活行動から発生するものがほとんどです。

これらのごみを少しでも減らす為には、生活からするごみに日頃から注意し、減らす為には何を行なべきかを考える必要があります。

このままごみが増え続けると、「地球環境が悪化する」など大きな問題が挙げられていますが、その他、私たちの身近なところでも、ごみの増加による弊害を認識することができます。



●私たちの身近では…

朝、学校に行く途中などで、右のような光景を見たことがありませんか？最近、食品ごみが増えたことによって、これらを餌にするカラスの数も急激に増えていると言われています。

こうしたカラスによる害は、食品ごみをある程度減らすことによって、防ぐことができます。



■ 環境も考えた食生活！

このように、私たちの食生活に関する環境の問題は、とても深刻なものになってきています。かつての食生活は、このような環境の問題をあまり心配せずに、楽しく、おいしく、しっかり食べることだけで充分でした。しかし、これからは、こうした問題を新たに考えながら、食生活を送ることが求められています。

つまり、

これまでの私たちの食生活=「おいしく、楽しく、しっかり食べること」

発想の転換

これから私たちの食生活=「おいしく、楽しく、しっかり食べること」
+「環境も考えて上手に食べること」

「上手に食べる」ことを教える(ワークブック②) p12へ